

議 事 録

会議名	令和7年度 第2回泉南市地域公共交通協議会	
開催日時	令和8年2月9日（月）午後2時20分～午後4時30分	
開催場所	泉南市役所本館 大会議室	
出席者	委員	17人（別紙のとおり）
	その他	欠席3名（内2名が代理出席）
	事務局	7人 泉南市： 鶴戸、市川、長濱、中村、木村 八千代エンジニアリング株式会社： 三上、河田
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 泉南市地域公共交通協議会規則の一部改正について</p> <p>(2) 泉南市地域公共交通計画の概要（現時点での骨子案）</p> <p>(3) さわやかバスの混雑状況</p> <p>(4) 今後の進め方</p> <p>(5) その他</p> <p>3 閉 会</p>	

審 議 経 過

(1 / 8)

※審議の要旨は次のとおり（○は委員の発言、●は事務局の発言）

次第1 開 会

次第2 議 題

(1) 泉南市地域公共交通協議会規則の一部改正について

●（事務局）協議会規則の一部改定を実施した。具体的には、部会を協議会の下に設け、適宜議論を実施し議論を深めていくことを意図したものである。

事後報告となるが、昨年12月23日に作業部会を設置、開催し、柳原会長、伊勢副会長及び事務局で作業ワーキングを実施した。部会にて、本日の資料に関して事前に議論を行い、本日の会議に臨んだ次第である。

また、例えば、料金改定が必要となった場合には、協議会の下に運賃協議部会を設置することも可能である点について、ご承知おき願いたい。

○（会長）先日の部会では、私や伊勢副会長を含め、事前に議論すべき点について事務局と協議した。また、具体的な施策について検討する場としても部会を位置付けている。

(2) 泉南市地域公共交通計画の概要（現時点での骨子案）

●（資料1及び参考資料1～3に基づき、事務局より説明）

○（A委員）「I 計画の概要」背景・目的の1行目にある「本市では、鉄道、路線バス、さわやかバス（本市のコミュニティバス）、タクシーなど、…」とありますが「など」には、他にどのような公共交通手段を想定されるのか。

●（事務局）過去にはデマンドバスの実験を実施しており、そのような内容も含め「など」

と表現をしている。特段、深い意図はない。

○（A 委員）最終ページの「IV 今後の取り組み」で「①公共交通を将来まで持続できるようにします。」に鉄道に関する記載が無いように感じる。もう一点、さわやかバスについての記載はあるが、1-2、1-3には和歌山バス那賀は含まれるのか。

●（事務局）鉄道に関しては、市として主体的に取り組める内容には限りがあると感じている。市としては、鉄道を含めた複数の交通機関を活用して利便性を向上させることを主眼に、駅前の渋滞対策や情報発信が主となるのかと考えている。

さわやかバスは、利用者のボリュームは少ないものの、なくてはならない交通のセーフティネットであり、市として主体的に取り組むことができる部分として重点的に示す必要があると考え、記載が多くなっている。さわやかバスをもっと便利にして、もっと利用者を増やして、市民生活の質を向上できればと考えている。

この後の資料で、さわやかバスの混雑状況についてお伝えさせていただくが、できる対策から1つ1つ取り組んでいきたいと考えている。

和歌山バス那賀については、今後事業者よりご意見を頂き計画に組み込みたい。岩出市からの府県間バスとして急行運行されており、泉南市域では樽井駅、市役所、和泉砂川駅にしか停車しない。これから調整させていただきたい事項もあり、公共交通として1-2、1-3に含まれると考えている。

○（会長）関連する質問で参考資料1のアンケート10ページで普段の買い物の移動手段の中で、『福祉サービスなどの送迎』という回答がみられるが、実態としてはどうなのか。

●（事務局）泉南市では福祉有償運送を実施している。

審 議 経 過

(3 / 8)

○（会長）福祉有償運送も公共交通として計画に位置付けることができ、位置付けることでこの会議の中でも取り扱うことが可能となる。アンケートの回答結果から意外と利用者がいるので、検討いただければと思う。

○（副会長）この後の議題の「今後の進め方」でスケジュールに関する説明があるのかもしれないが、今回は案ということで、来年度も含め、議論が進む中で変更されることはあるとの認識でよいか。

●（事務局）今回お示ししたのは、たたき台の案の段階で、これから議論を深めていくものと考えている。

○（副会長）「III めざす姿と取り組みの基本方針」の4にある公共交通不便地区とあるが、バスでカバーできないエリアを不便地区とされているのかと思う。不便地区や空白地区の設定や定義はどのように考えているのか。イメージとしてはサービスが提供されているだけでなく、サービス水準といった議論になるのかと考えており、立地適正化にも関係する内容となるので確認したい。

●（事務局）不便・空白地域についての考え方であるが、バス停までの距離だけでなく、バス停に近いけれども便数が少ないバス停付近については「不便地区」と考えてられている。全国的には「1日往復で15便未満」を不便と分類する場合があるが、さわやかバスではこのサービス水準を直ちに満たすことは難しい。

また、山間部ではバス停まで歩いていくのが困難な地域があり、そのようないわゆる『空白地域』について、公共交通としてどう対応するかがもう1つの大きな課題であると考えており、検討していきたい。

審 議 経 過

(4 / 8)

○（会長）タクシーが配車を30分以内にできない地域を『空白地域』と設定する場合もある。現状、タクシーが来れないということはありうるのか。

○（B委員）よほどの条件が重ならない限り、市内で30分以内に配車できないということはないと考えている。

○（会長）考え方によっては、空白地域に該当する地域は無いと想定される。

○（C委員）免許返納というキーワードがあった。大阪府では高齢者向けの免許返納のサポート制度を実施している。返納いただいた方に特典を贈呈している。交通安全政策側からのアプローチが、結果として公共交通の利用促進に繋がるというアイデアのひとつとしてお考えいただければと思う。

○（D委員）資料1のめざす姿として泉南市の方向性は、高齢者をメインとした計画を作られるのか。また、バス協会からもご指摘あったと思うが、さわやかバスに関する内容が多い。地域公共交通計画は、市の公共交通全体に関する計画であるので鉄道や路線バスについても入れた方が良いのではと考えている。幹線・フィーダーの補助を検討されるのであれば、位置づけを検討いただければと思う。

●（事務局）1つ目の高齢者については、高齢者の健康のため外出機会を増やしていくことはたいへん重要であると考えている。もう1点重要と考えているのは、地球環境への貢献である。泉南市は圧倒的なクルマ社会である。公共交通であるバスの利用が少なく不便であるのは事実であるが、今後は正のスパイラルへ動かしていきたい。例えば、市民の方が100回自動車に乗るうちの1回を、公共交通であるバスに変更して頂くだけでも、さわやかバスに乗り切れないほどバス利用者が増えるのではないかと。公共交通の未来を考えるうえでも重

要な方向性だと考えている。

路線バスの和歌山バス那賀は、泉南市としても重要な公共交通の 1 つである。補助に関しては、岩出市より補助を受けているとお聞きしている。

また、泉南市の公共交通全体としての計画なので、ご指摘いただいた通り、路線バスやタクシーも含めて計画の検討を進めていく。

○ (E 委員) 現在、和歌山バス那賀では、和歌山県岩出市から樽井駅へ府県間運行を実施している。国庫補助を受けており、運行経費も岩出市より補助を受けている路線となっている。

○ (F 委員) 私は視覚障害があり、公共交通で移動している。鉄道にさわやかバスで間に合わない際は、タクシーを利用していたが、『予約できない』といわれるようになってからタクシーを利用しなくなった。その代わりに介護タクシーを予約して利用している。帰りも駅にタクシーが無く、バスの便数が少ないため、介護タクシーを利用することになってしまう。タクシー会社へ改善をお願いしたい。

○ (B 委員) お断りする状況になってしまっていて申し訳ない。予約を受けることは可能である。雨などで交通の状況が読めない場合は、予約時間に到着しない可能性もあるため、お断りする場合もあると聞いている。何かあれば私にお伝えいただきたい。樽井駅に 10 台ほど待機しているので出払ってしまっていることはないのかと感じる。私の方でも現場を確認する。ご迷惑をおかけして申し訳ない。タクシー会社を信じていただきたい。

○ (B 委員) アンケートから 8 割の方がタクシーを利用されていないのは、逆にチャンスととらえており、タクシーを公共交通として利用いただく取り組みを実施いただきたい。

もう 1 点は、タクシーが選択肢にならないことである。バスや公共交通を利用されている方

は、タクシーやバスを選択肢として検討されるが、ほとんどの方が自家用車なので選択肢としてタクシーが出てこないのかと思っている。元気に外出してもらい、外出手段として、今日はバスに乗ろう、今日は荷物があるからタクシーに乗ろうという、まず、公共交通が選択肢になるような施策を取り組んでいただきたい。

また、高齢者に失礼かもしれないが、子供が公共交通に乗らないことが一番心配であり、他の自治体では対策している事例もある。子供が大人になって、そのお子さんは公共交通に乗らなくなってしまう。資料にもあるように、弊社でも学校に出前授業を実施しており、来週、堺市で実施させていただく予定である。

タクシー会社も自発的に、返納者に対して1割引を実施している。また、タクシー協会でもタクシーチケットの寄付を実施しているので、活用いただければと考えている。取り組みについて連携できればと考えている。

●（事務局）アンケートでのタクシーの利用状況は想定したよりも思わしくなかったが、例えばイオンに行く際はバスで、帰りはタクシーでという場面はあるのではないかと感じている。タクシーやバスをはじめ、公共交通のパッケージのような仕組みができないかと考えている。積極的なご提案をお願いします。

(3) さわやかバスの混雑状況

●（資料2及び参考資料4に基づき、事務局より説明）

（質疑なし）

(4) 今後の進め方

● (資料3に基づき、事務局より説明)

(質疑なし)

(5) その他

○ (G 委員) 個人的なことになってしまうが、家内が免許を返納した。現在は、私が運転して交通手段を確保できているが、今後できなくなったときにどうするか。現在、新家の八幡山に住んでおり、健康な方でも駅まで歩けば時間がかかる。高齢者ではもっと時間がかかる。タクシーが良いのか、バスの便数を増やしてもらう方が良いのか考えている。私も返納してしまった際にどうすればいいのか心配である。

○ (H 委員) 先ほどの説明にあった一丘回りの9時半の便は、20人以上が乗られており、立ってイオンまで行かないといけない。高齢者の利用が多いので、特に年金支給日は混雑する。私も利用するが、20人以上乗られていると高齢者ではどうしようもない。そこが問題なのかと考えている。

○ (F 委員) 同じ話になるが、一丘回りの9時半の便が混雑する。イオンの割引の20日・30日が混雑する。帰りの15時の便もかなり混雑するので、20～30分前から並ばないと座れない。そのあとの便は17時になってしまうので、検討いただきたい。

先日、白杖をもって乗車したところ、運転手の方に車内アナウンスをしていただき、席を譲っていただけた。この場で感謝を申し上げたい。

○ (I 委員) 基本方針の中に鉄道の項目に関する記載がないということだが、昨年、泉南市が

審 議 経 過

(8 / 8)

岡田浦駅のバリアフリーの基本構想に関する協議会を立ち上げ、基本構想を策定された。今年度は樽井駅のバリアフリーに関する基本構想の見直しを実施されているので、本計画とリンクできればよいのでは。

次第3 閉 会